

エコアクション21

第66期 2023 年度



環境経営レポート



(対象期間：2023 年4月1日 ～ 2024 年3月31日)



本社・本社工場



京都工場



小牧工場



仙台工場

SEAVAC

発行日： 2024/6/25

SEAVAC 株式会社



エコアクション21[®]
認証番号 0010817

目 次

ごあいさつ	2
環境経営方針 <環境経営理念／環境保全への行動指針>	2
組織の概要	3
認証・登録の対応組織・活動	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図	5
役割・責任・権限表	6～7
主な環境負荷の実績	8
環境経営目標及びその実績	9
環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画	10～15
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟等の有無	16
外部からの環境上の苦情・要請等	16
緊急事態対応訓練	17～19
代表者による全体の評価と見直し・指示	20
これまでの環境活動の紹介	21
編集後記	21

□ご挨拶

私はこのエコアクション21の活動実施することを決めたのは
当社経営理念の中にある「環境にやさしく」が理由です。

私は当社に関わる全ての方々に良い環境の中で毎日を
送って頂きたいと思っています。

残念ながら、当社は環境に対してまだまだ配慮が足りない
のが現状です。

このエコアクション21の活動をきっかけに「環境」にもっと
目を向けて、「環境にやさしい」会社になります。

環境経営方針

<環境経営理念>

『協働前進』

思いやり	人にやさしく 環境にやさしく 文化にやさしい 企業と なる
信 頼	私たちを 取り巻く 人々との間に 信頼関係を築 き共に繁栄する
力 強 さ	自主自立の精神で 一致団結し 常に可能性にチャ レンジする
よろこび	ユーザーに喜ばれる製品・サービスを提供し もっ て我々の喜びとする
希 望	自分らしく 楽しく 豊かな社会生活を営む
誇 り	自分自身に自信を持って誇れる仕事をする

<環境保全への行動指針>

1. 地域・職場の安全衛生と環境を常に心掛ける。
2. 環境・安全の法的規制や当社が約束したことを遵守する。
3. CO2・水使用量・廃棄物を削減する。
4. 一人作業をせず、事故防止を心掛ける。
5. リデュース・リユース・リサイクルを心掛ける。

制定日： 2019年4月1日



代表取締役社長

清水 博之

組 織 の 概 要

□会社概要

● 会社名及び代表者名

会社名 SEAVAC株式会社
代表者名 代表取締役社長 清水 博之

● 所在地

本 社 兵庫県尼崎市杭瀬南新町1-12-6
京 都 工 場 京都府久世郡久御山町市田新珠城68
小 牧 工 場 愛知県小牧市市之久田2-38
仙 台 工 場 宮城県黒川郡大衡村大衡字萱刈場236-5

● 創業 1949年(昭和24年)2月7日

● 事業年度 4 月 1 日 ～ 3 月 31 日

● 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責 任 者 営業部長 高田 誠
担 当 者 品質保証部 井畑 史朗

● 事業内容

真空熱処理加工、PVD（機能性薄膜）表面硬化処理加工、
金型・切削工具・機械部品への表面処理加工、
表面加工設備の製造販売
工業炉の製造販売及びアフターサービス

● 事業の規模 (2023年4月16日 現在)

売上高 15 億円

	本社	京都工場	小牧工場	仙台工場	合計
従業員 名	42 名	40 名	29 名	20 名	131 名
延べ床面積 m ²	532 m ²	1,903 m ²	656 m ²	8,967 m ²	12,058 m ²

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 : SEAVAC株式会社

対象事業所 : 本 社
京 都 工 場
小 牧 工 場
仙 台 工 場

活動 : 真空熱処理加工、
PVD（機能性薄膜）表面硬化処理加工、
金型・切削工具・機械部品への表面処理加工、
表面加工設備の製造販売
工業炉の製造販売及びアフターサービス

□事業や製品（商品）の紹介

「弊社コーティング装置」



SEAVACの業務内容

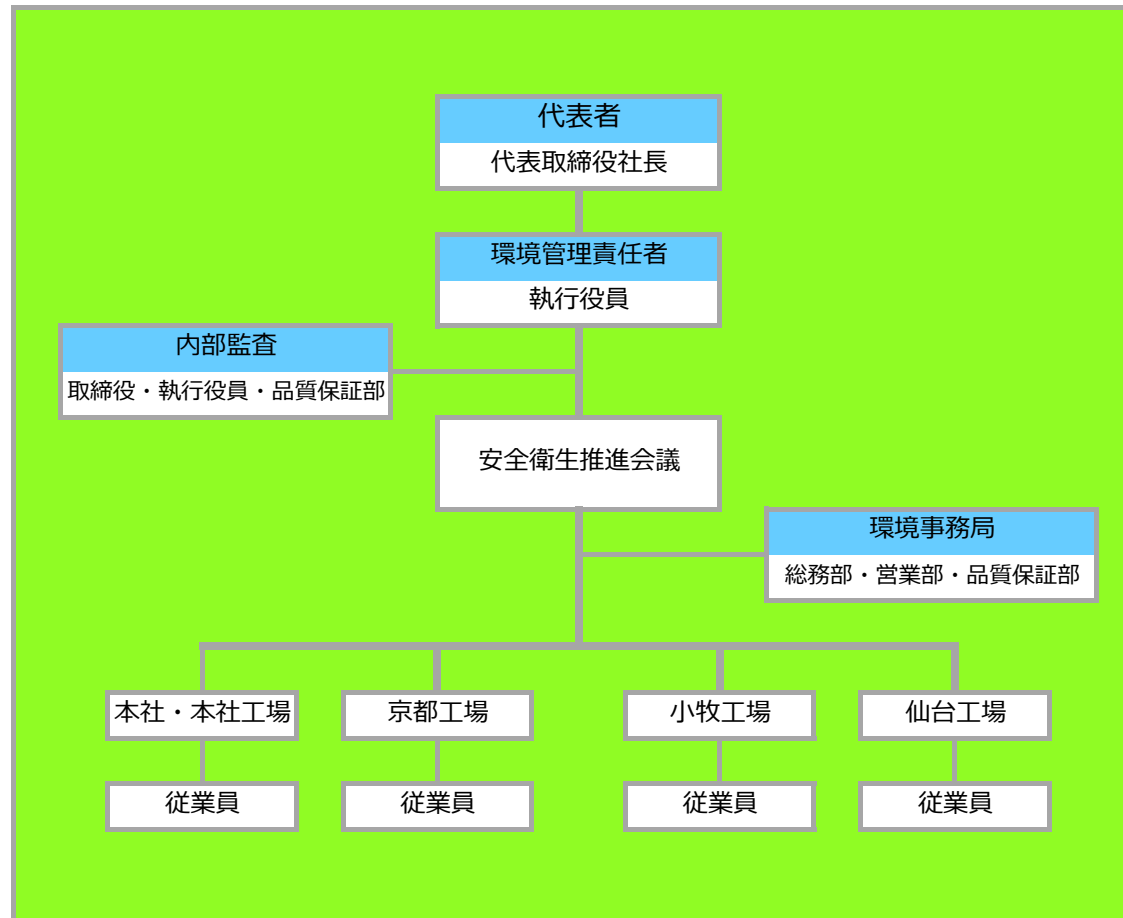
加工部門	VHT真空熱処理加工(Vacuum Heat Treatment) PVD物理蒸着処理加工(Physical Vapor Deposition) 下地強化処理(WPC・窒化)・ラッピング
装置部	PVD処理装置販売 工業炉の製造販売及びアフターサービス

SEAVACの目指す姿

「協働前進」当社が目指す姿はこの一言に凝縮されています。
それは当社の経営理念です。
経営理念こそが会社の目指す姿です。

環境経営組織図

更新日： 2023年8月29日



役割・責任・権限表

	役割・責任・権限		役割・責任・権限
代表者 代表取締役社長	- 環境経営に関する統括責任 - 地域貢献、寄付、ステークホルダーに対するCSRに関する包括的な意思決定 - 環境管理責任者を任命 - 環境経営目標の作成 - 環境経営目標・環境経営計画書を承認 - 環境経営方針の策定 - 経営における課題とチャンスの明確化 - 代表者による全体の評価と見直しを実施 - 環境経営レポートの承認	部長/課長 (社内組織図に基づく)	- 環境経営方針の周知 - 従業員に対する教育訓練の実施 - 環境経営計画の実施及び達成状況の報告 - 試行・訓練を実施、記録の作成（EA21記録以外も含む） - 問題点の発見、是正、予防処置の実施
	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 - 環境経営目標・環境経営計画書を確認 - 環境活動の取組結果を代表者へ報告 - 環境経営レポートの確認 - 環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 - 教育訓練計画の作成 - 環境委員会事務局 - 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 - 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知		- 各工場の環境経営計画書を作成、確認 - 各工場の環境経営目標・環境経営計画書を確認 - 各工場の環境活動の取組結果を入力 - 教育訓練計画に基づく教育の実施、記録、確認 - 環境コミュニケーション記録の作成、確認 - 負荷記録表（廃棄物・化学物質使用量）の入力 - 屋内作業環境測定（温度、湿度、光等）の実施、確認
環境管理責任者	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 - 環境経営目標・環境経営計画書を確認 - 環境活動の取組結果を代表者へ報告 - 環境経営レポートの確認 - 環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 - 教育訓練計画の作成 - 環境委員会事務局 - 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 - 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知	環境管理担当者 活動（各工場） 組織図	- 環境関連法規とりまとめ表の確認・承認 - 法規活動の取組結果を入力 - 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 - 作業環境測定自主検査実施確認 - ショット機年次点検実施確認
内部監査	- 環境管理責任者の指示により実施（7,8月、2,3月） - 環境に関する内部監査の計画 - 環境に関する内部監査の実施・報告	環境管理担当者 法令（各工場） 組織図	- 負荷記録表（エネルギー、水使用量）の入力 - エネルギー使用量、水使用量の各工場への通知 - 環境関連教育内容の通知 - 様式10 緊急事態（火災対応）手順書の作成 - 環境関連法規等とりまとめ表総務関係の入力 - PRTR法届出書類管理 - 各工場マニフェスト、契約書の確認 - 緊急事態・消防訓練記録の作成、確認
安全衛生推進会議	- 毎月課長以上出席 - 環境経営計画の審議 - 環境活動実績の確認・評価 - 代表者の見直し	環境事務局 環境管理担当者 総務部	

役割・責任・権限表の続き

	役割・責任・権限		役割・責任・権限
環境事務局 環境管理担当者 品質保証部	・ 環境管理責任者の補佐	環境事務局 環境管理担当者 営業部	・ 負荷記録表（売上）の入力
	・ 負荷記録表、活動計画進捗表、法規のチェック		・ 各工場売上目標、実績の入力
	・ 環境負荷の自己チェックまたはSDG s チェックの実施	全従業員	・ 負荷記録表（売上）の入力
	・ 環境経営計画書の作成		・ 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚
	・ 環境活動の実績集計		・ 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加
	・ 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理		
	・ 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施		
	・ 環境関連の外部コミュニケーションの窓口		
	・ 環境経営レポートの作成、公開 （事務所に備付けと地域事務局への送付）		
	・ 環境経営レポートの掲載項目の提出		

主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	2,586,907	2,619,114	2,268,528
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	8,808	8,957	7,340
産業廃棄物排出量	kg	3,760	5,498	5,313
水使用量	m ³	6,544	5,538	4,400

※二酸化炭素排出係数 0.446 kg-CO₂/kWh 電力会社の調整後の係数 （平均）

☆二酸化炭素総排出量には都市ガス、LPGが含まれています。

☆一般廃棄物には再資源化している段ボールが含まれています。

☆産業廃棄物については売却・再資源化しているものも含まれています。

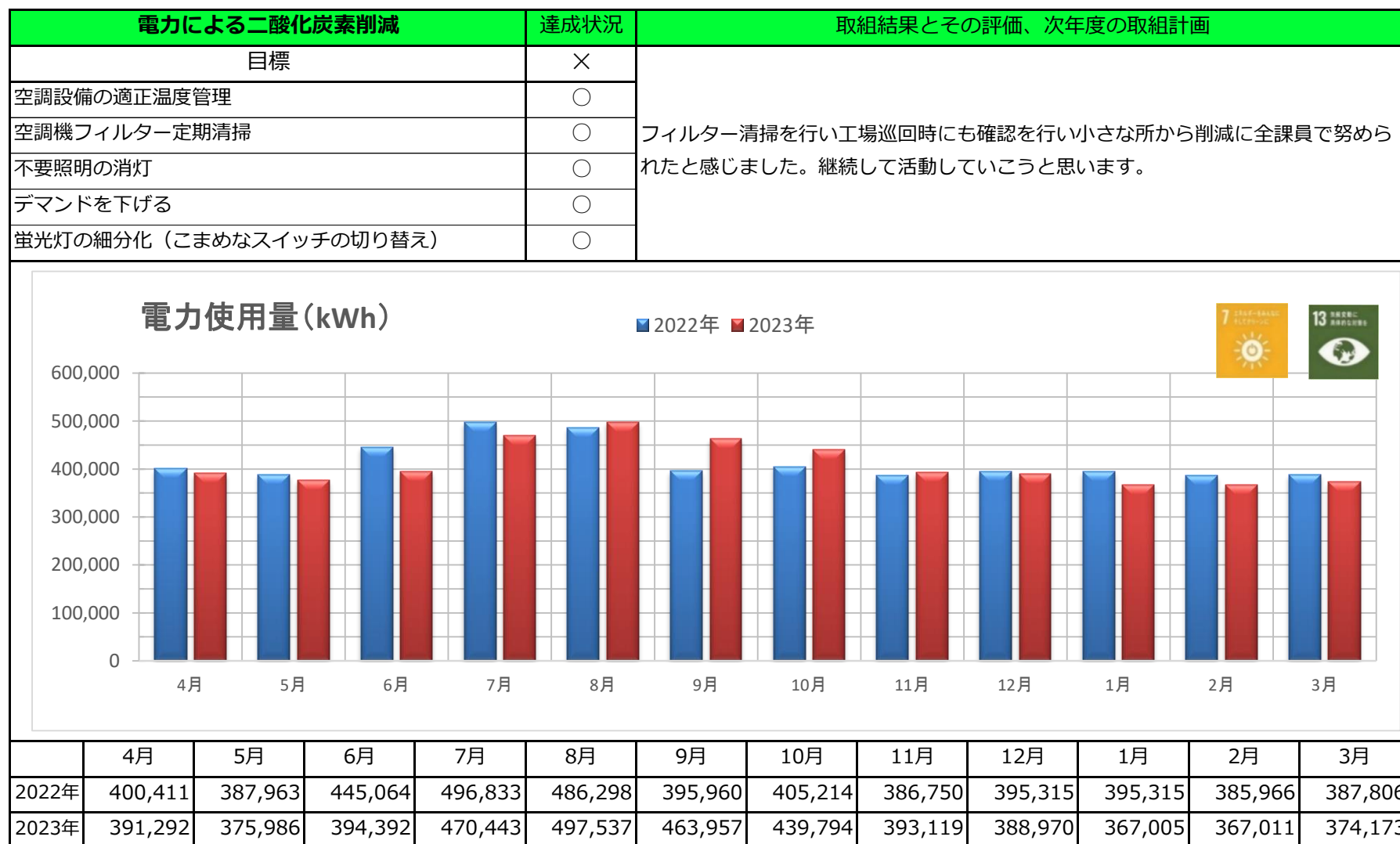
環境経営目標及びその実績

項 目	単位	基準年	3年間の目標			今期の実績	評価
		2022年 実績	2023年 目標	2024年 目標	2025年 目標	2023年 実績	
電力による 二酸化炭素削減	kg-CO2	2,219,182	2,174,798 98%	2,130,415 96%	2,108,223 95%	2,197,930 99%	×
自動車燃料による 二酸化炭素削減	kg-CO2	53,663	69,762 130%	64,396 120%	61,712 115%	70,389 131%	×
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	2,272,845	2,244,560	2,194,810	2,169,935	2,268,320	
一般廃棄物の削減	kg	7,857	7,307 93%	7,307 93%	7,072 90%	5,806 74%	○
産業廃棄物の削減	処分（埋立） kg	3,316	3,482 105%	2,653 80%	2,321 70%	3,332 100%	○
	再生利用 （支払）kg	-	-	-	-	1,601	
水道水の削減	m³	4,202	4,202 100%	3,866 92%	3,782 90%	4,400 105%	×
メチレンクロライド 購入量削減	kg	7,250	7,178 99%	6,670 92%	6,525 90%	7,500 103%	×
環境に配慮した 生産活動		行動目標（次項による）					

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

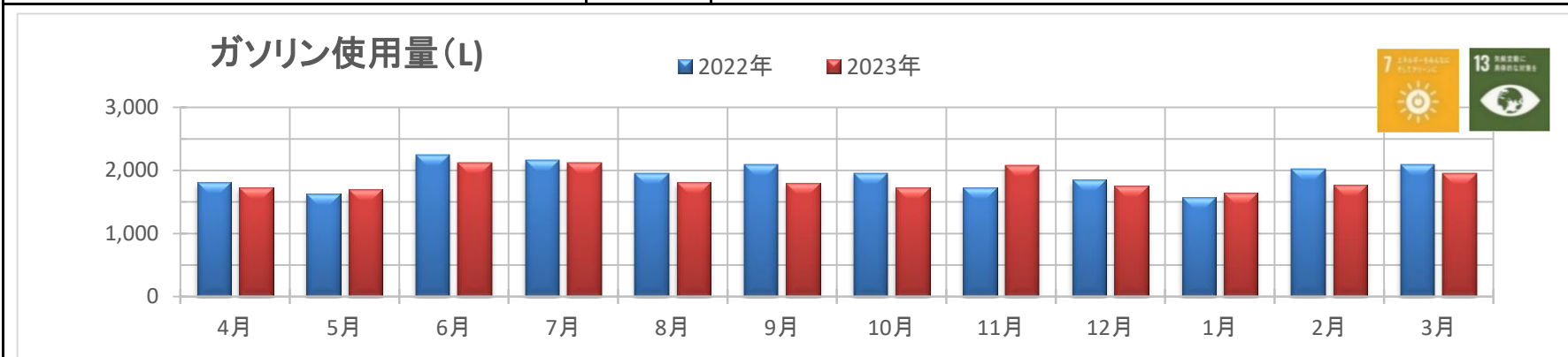
目標：○達成 ×未達成

活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

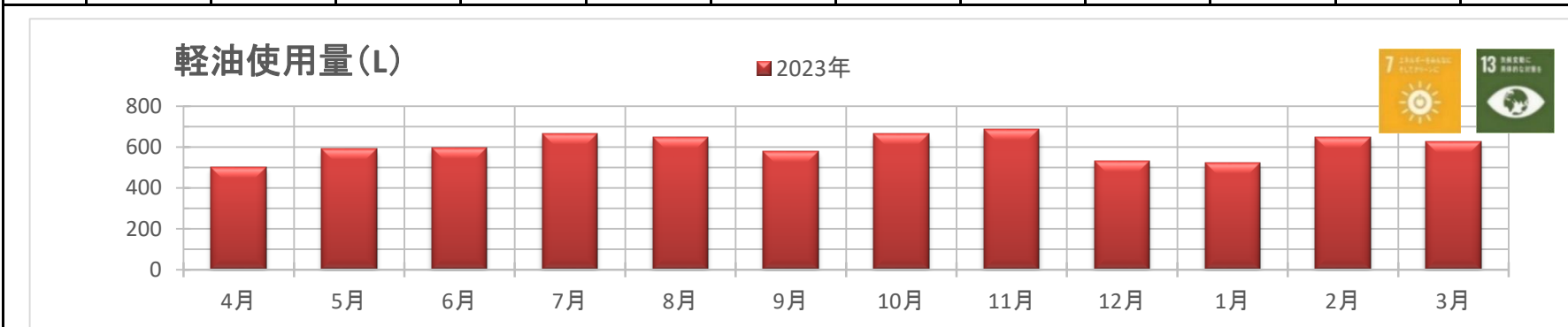


環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画の続き

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	営業車が増加した分ガソリン使用量も増加しておりますが、エコ運転を心掛けた成果もあり、全体的には使用量は抑えられた。ただし目標未達となったため来期はさらに効率のよい配送ルートを模索する。
エコドライブなど運転方法の配慮、駐停車中のエンジン停止	○	
タイヤ空気圧の定期点検	○	
エリア別営業活動の見直し	○	



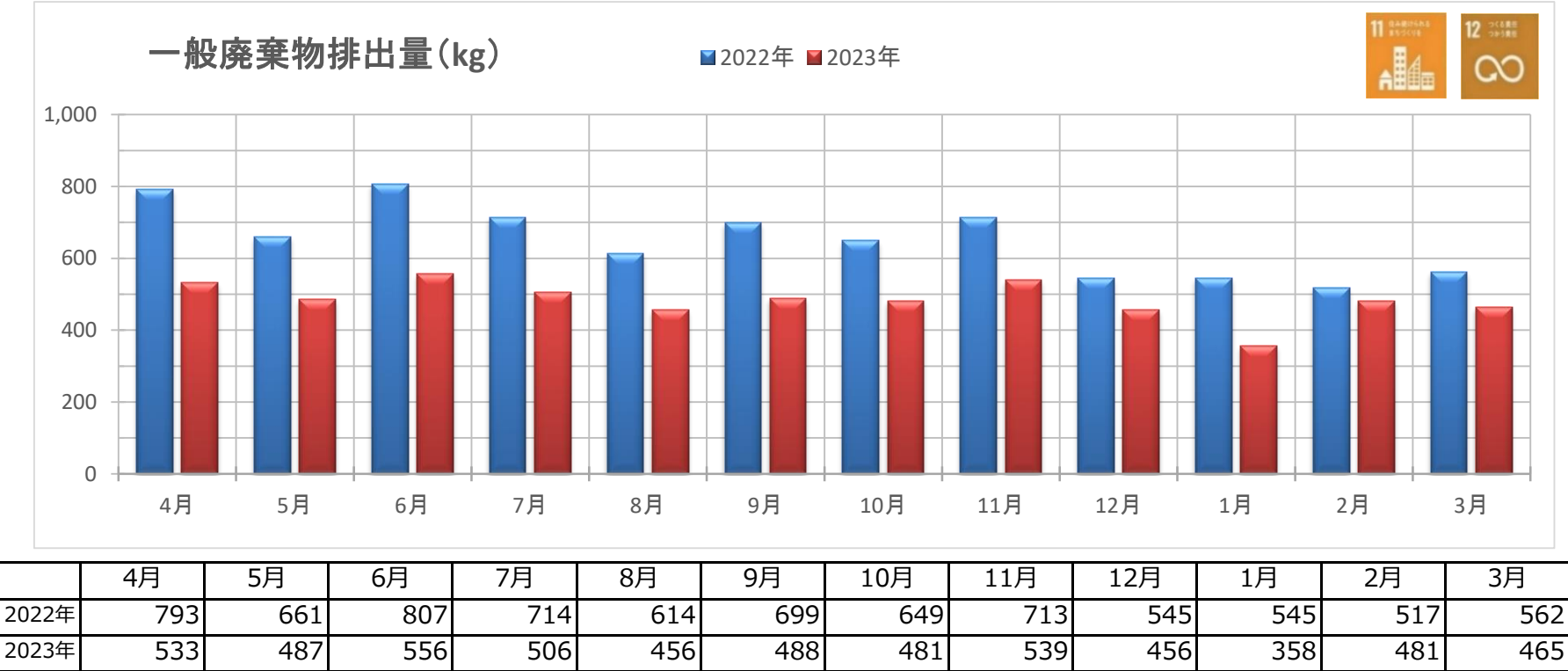
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	1,812	1,627	2,240	2,168	1,956	2,087	1,959	1,727	1,849	1,577	2,018	2,093
2023年	1,734	1,705	2,121	2,119	1,811	1,800	1,729	2,079	1,757	1,649	1,774	1,945



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年	501	590	596	665	650	581	664	686	533	524	650	628

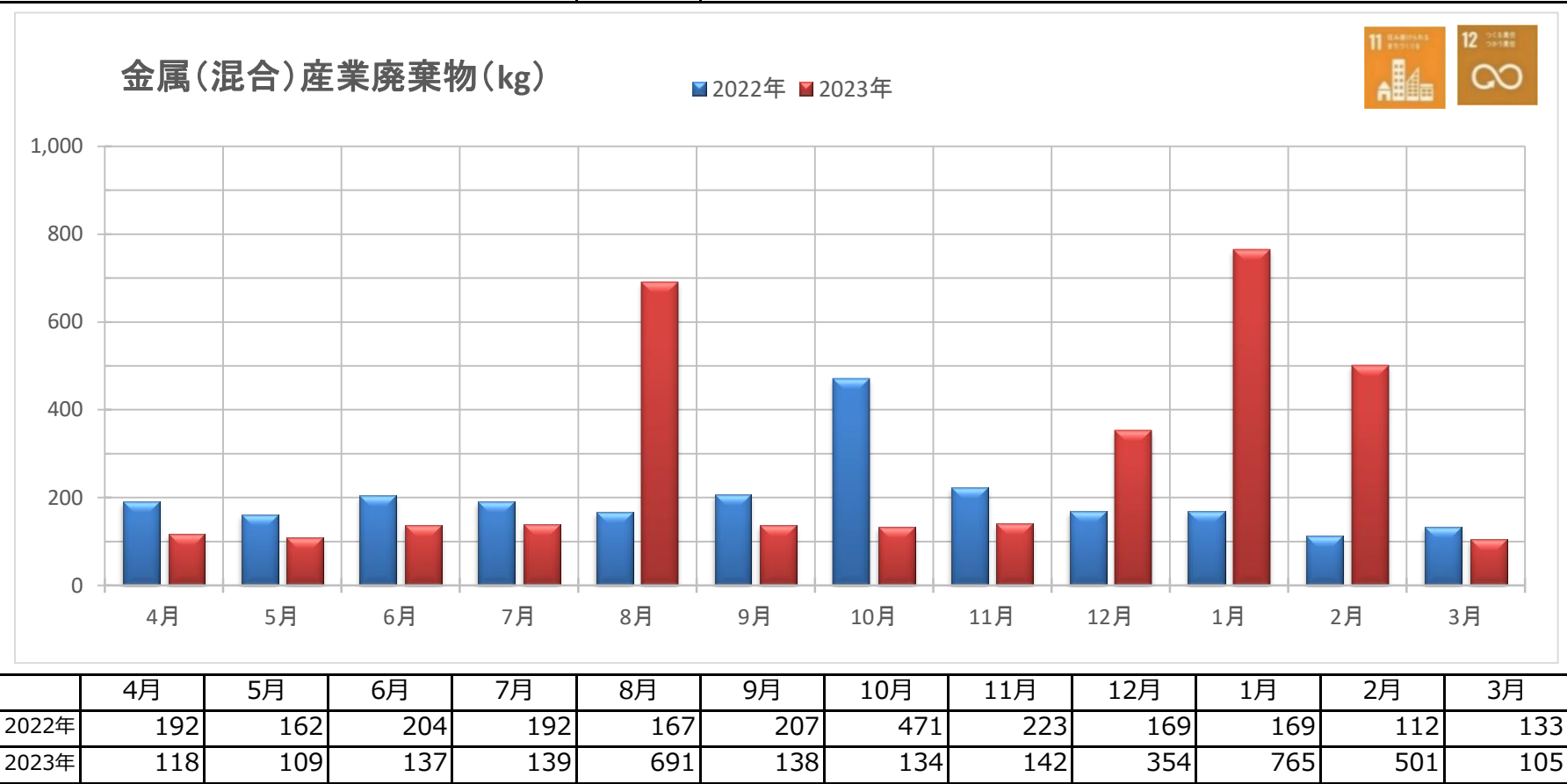
環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画の続き
 廃棄物排出量

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	今まで一般廃棄物として処理していた廃プラスチック類が産業廃棄物になった為、一般廃棄物量は、大きく減少した。分別の徹底は来期以降も継続する。
分別の徹底	○	
3Rの推進（緩衝材、現品票用袋の再利用）	○	
正しく分別が行われているか確認	○	



環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画の続き
廃棄物排出量

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	インラインの生産終了があり、廃棄物が増えたことで昨年比減とはならなかった。来期はこの数字にはならないと考える。
廃棄物の重量の把握	○	
リデュース、リユースの推進	○	
産業廃棄物の体積の削減	○	



環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画の続き

水道水の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		×	大きな水漏れなどは無かった。除膜作業等日々使用する水道水の使用量を削減出来る様来期は努めていく。
トイレ水道 自動（節水）		○	
地下ポンプの水漏れ確認		○	
貯水槽		○	
設備関連水漏れ確認		○	

水道水使用量(㎡)

■ 2022年 ■ 2023年

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	125	613	148	673	162	623	121	561	111	644	127	294
2023年	123	742	156	639	191	768	127	576	96	480	66	436

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	125	613	148	673	162	623	121	561	111	644	127	294
2023年	123	742	156	639	191	768	127	576	96	480	66	436

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画の続き

化学物質購入量削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	新規F1クリーンの為増加傾向になった。新規設備により洗浄能力が上がり来期は減らせるよう努力する。
作業ミスによる使用量の削減（再洗浄するなど）	○	
容器の蓋の閉め徹底。	○	
使用インフラに対しての総点検	○	
3 すべての人に健康と福祉を  11 住み続けられるまちづくりを 		

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
表面処理売上の向上	○	自動車製造状況が少し好転し、設備販売があったため、売上アップになっている。
除膜などのリユースの推奨	○	
9 産業、科学技術イノベーションの発展を促そう  12 つくる責任 つかう責任 		

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 / 並びに違反 / 訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物・産業廃棄物（金属くず・廃プラ・廃油・廃アルカリ等）
道路交通法	車両の大きさ・重量、通行制限
騒音規制法	空気圧縮機・空調機・ショットブラスト機・コンプレッサ
振動規制法	空気圧縮機・コンプレッサ
大気汚染防止法	ショットブラスト機・洗浄機
水質汚濁法	洗浄設備
浄化槽法	浄化槽
下水道法	除害施設
消防法（危険物）	エタノール・潤滑油など危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍機・スポットクーラー
公害防止組織法	特定施設に該当
顧客要求事項	品質管理

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去３年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等

本社工場

近隣から騒音の苦情がありました

原因：夜間の室外機の音

対策：夜間のファンの停止及び、室外機の防音工事

緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 10:00 2F給湯室より出火	
■実施日： 令和6年2月13日	■実施場所： 本社工場
■参加者：	従業員： 30 名
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☐ 消火訓練 ☒ 避難訓練 ・ 一斉放送にて避難訓練及び通報訓練を実施。 ・ 避難場所に集合後、点呼をとり全員の避難を確認。 ・ 総務部従業員より消火器の使用方法等の説明を受けた。 ・ 通報する際の注意点等の説明を受け、実際に通報訓練を実施。	
■評価：	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし ・ 避難訓練は全員避難完了するのに約2分かかりましたが、スムーズに避難できたと思います。 ・ 通報訓練は問題なく出来ました。
■実施状況の様子 【訓練状況】 ・ 避難訓練	
	・ 消火器取扱説明 



緊急事態対応の試行・訓練の続き

緊急事態の想定： 14:00 北棟喫煙所からの出火	
■実施日： 令和5年10月16日	■実施場所： 京都工場
■参加者： 従業員： 36 名	
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練 ・ 一斉放送にて従業員の避難誘導と119番への通報訓練を実施。 ・ 避難場所に集合後、点呼をとり全員の避難を確認しました。 ・ 水消火器にて消火訓練を実施。	
■評価：	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
・ 通報訓練は問題なくできた。 ・ 避難訓練は全員避難完了するのに約3分かかりましたが、前回は約4分かかっていたのでスムーズに避難できたと思います。 ・ 従業員の人数の把握もきっちり出来ていたの、点呼もすぐにとることができました。 ・ 消火訓練は消火器を使用したことが無い従業員を優先的に水消火器を使用して実施しました。とても有意義な訓練を実施できたと思います。	
■実施状況の様子 【訓練状況】 ・ 避難訓練	
  ・ 消火訓練 	



緊急事態対応の試行・訓練の続き

緊急事態の想定： 火災発生時の対応・消火器等の取扱方法の教育及び理解度確認	
■実施日： 令和6年3月11日	■実施場所： 小牧工場
■参加者：	従業員： 21 名
■実施内容： ☐ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☐ 避難訓練 ① 火災発生時の対応についての説明：スギサン化学より、配布資料を基に説明 ② 火災受信機・消火器の取扱説明：スギサン化学より、火災受信機の写真、訓練用消火器を用いて使用方法などの説明 ③ 動画視聴：「消火器の取扱方法について」・「もしもベルがなったら」 ④ 理解度確認：説明を受けた内容から、空欄の語句を回答する問題を実施。（全16問）	
■評価：	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
・ 例年は避難訓練・通報訓練を実施しているので、本年は教養型訓練を行いました。 特に理解度確認は、従業員が火災に対して考える時間となったため、有効性が有ると感じました。	
■実施状況の様子 【訓練状況】 ・ 例年は避難訓練・通報訓練を実施しているので、本年は教養型訓練を行いました。 ・ 30分程度の時間を取り、一同が集まり講習の様は形式で、実施内容：①～④を行いました。 ・ 火災に限らず、自然災害などいつ発生するか分からない為、再度避難経路の確認と同セクションメンバーの出勤状況を常に意識してもらうように注意を呼びかけました。	



緊急事態対応の試行・訓練の続き

緊急事態の想定： 工場北側の喫煙所付近からの出火	
■実施日： 令和6年3月11日	■実施場所： 仙台工場
■参加者： 従業員： 19 名	
■実施内容： ☐ 通報訓練 ☐ 消火訓練 ☒ 避難訓練 1) 119番通報訓練/ 構内放送 4) 人員点呼 2) 初期消火人員による消火模擬訓練 3) 避難誘導人員の指示に従った避難訓練	
■評価： 手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし 1) 通報訓練では前回と同じ従業員が通報。現場責任者の主任は、次回通報に備えて通報状況を横で確認。 2) 2)～4)に関しては、問題無く行えた。 3) 避難訓練は全員避難完了するのに約2分12秒かかりましたが、スムーズに避難できたと思います。 4) 従業員の人数の把握もきっちり出来ていたので、点呼も1分10秒でできました。	
■実施状況の様子 【訓練状況】 ・ 避難訓練	
 	



代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日： 2024年6月25日

<情 報>		<見直し・指示>
◇自社を取り巻く環境問題の変化（社会的情勢、利害関係者の要求等） コロナが終息していく中で、会社としての活動が前年度より活発になったことで、前年度より数値的に増えている項目はあるが、コロナで活動が制限されていたので、今後は通常の数値が標準値になると思う。		◇環境方針 環 境 方 針 地域・職場の環境に配慮した活動を心掛ける ①環境に関する法的規制や当社が約束したことを遵守する ②CO2・水使用量・廃棄物を削減する ③ロデュース・リユース・リサイクルを心掛ける
◇環境経営目標・計画の達成状況 上記の通り、増えている項目はあっても、営業活動が増えた為に電気が増えている。2024年度は減少、または横ばいになると思う。		◇環境経営目標・環境経営計画 2024年度は前年度の5%ダウンを目標に全社員が意識を持って、環境改善に取り組めるように社内を作っていく。
◇その他		◇実施体制他 ESGプロジェクトの推進

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり

これまでの環境活動の紹介

- ・ ペットボトルキャップリサイクル活動を実施

2023年度は、ペットボトルキャップを合計 23.8 kg リサイクルに出しました。（ワクチンで換算すると 15.9 人分に相当します。）



- ・ 2023年度のeco検定は3名合格。累計34名の合格者になりました。
「eco検定合格者ランキング2023」の従業員300名以下のランキングで13位に入りました。

□編集後記

今年度は生産量増加の影響もあり、電力量や水使用量、産業廃棄物の排出量が増加してしまった。

来年度以降もこのような状況は続く予想される。

個々人の環境意識はこれまでの取組で高まっていると感じているので、組織全体でよりEA21に積極的に参画する雰囲気づくりを行いたい。